

令和4年度 多文化共生の県民意識に関するアンケート調査

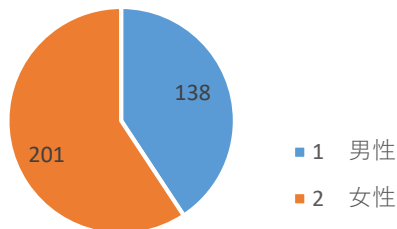
実施時期 令和4年5月

	対象者数	回答者数	回答率
・郵便調査	195	169	86.6%
・ネット調査	238	171	71.8%
合計	433	340	79.2%

○アンケート集計結果

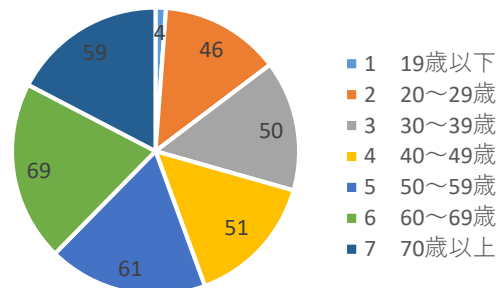
問1 はじめに、あなた自身のことについてお聞きします。あなたの性別をお答えください。

1 男性	138	41%
2 女性	201	59%



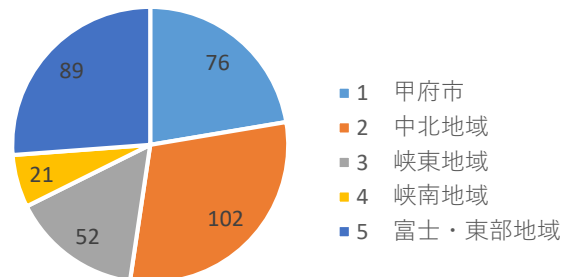
問2 あなたの年齢をお答えください。

1 19歳以下	4	1%
2 20～29歳	46	14%
3 30～39歳	50	15%
4 40～49歳	51	15%
5 50～59歳	61	18%
6 60～69歳	69	20%
7 70歳以上	59	17%



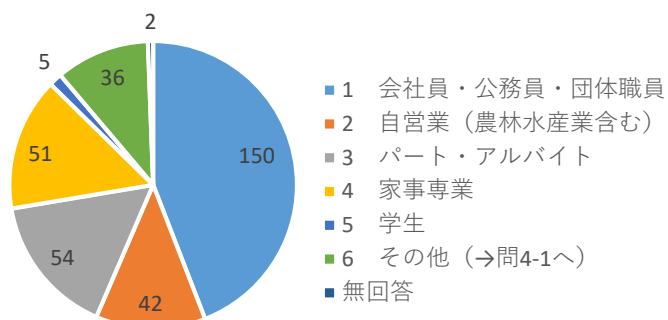
問3 あなたのお住まいの地域をお答えください。

1 甲府市	76	22%
2 中北地域	102	30%
3 峡東地域	52	15%
4 峡南地域	21	6%
5 富士・東部地域	89	26%



問4 あなたの職業をお答えください。

1 会社員・公務員・団体職員	150	44%
2 自営業（農林水産業含む）	42	12%
3 パート・アルバイト	54	16%
4 家事専業	51	15%
5 学生	5	1%
6 その他（→問4-1へ）	36	11%
無回答	2	1%

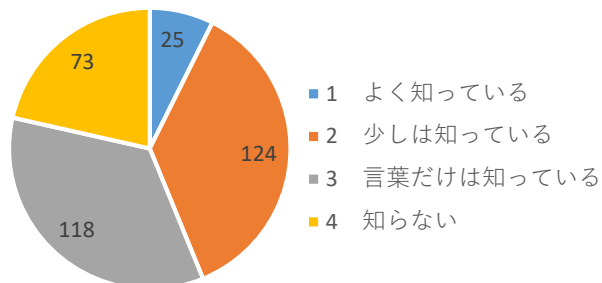


問4-1 問4で「6 その他」を選択した方は内容を記入してください。

- ・無職 20
- ・会社役員 5
- ・ソーシャルワーカー ・歯科衛生士 ・勤務医 ・派遣社員

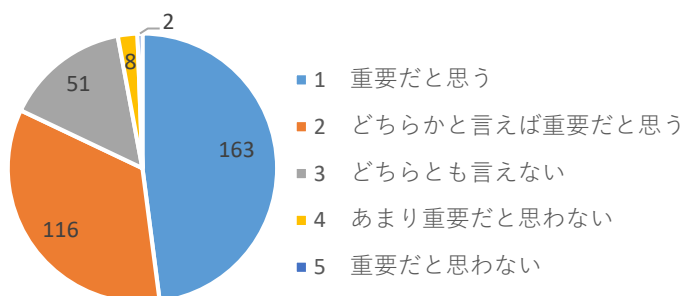
問5 あなたは「多文化共生」という言葉や考え方について、どの程度ご存じですか。

1 よく知っている	25	7%
2 少しは知っている	124	36%
3 言葉だけは知っている	118	35%
4 知らない	73	22%



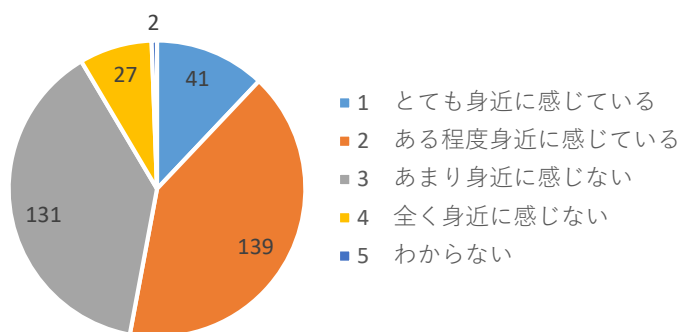
問6 現在、山梨県内には約1万7千人の外国人が暮らしています。あなたは、国籍や民族などの異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。

1 重要だと思う	163	48%
2 どちらかと言えば重要だと思う	116	34%
3 どちらとも言えない	51	15%
4 あまり重要だと思わない	8	2%
5 重要だと思わない	2	1%



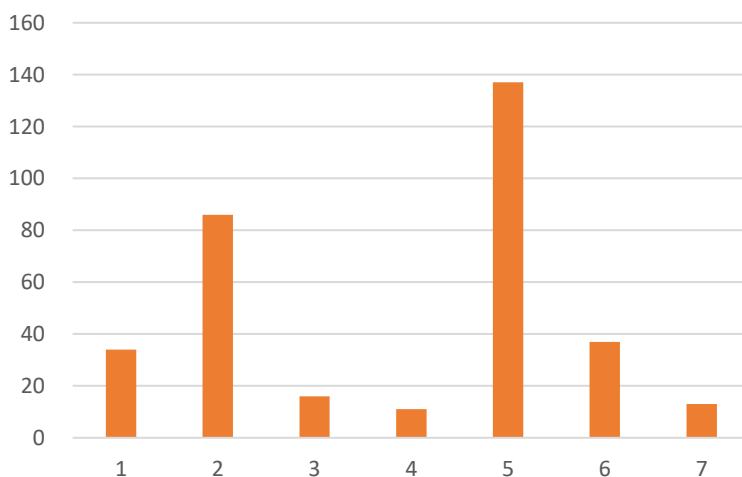
問7 あなたは、普段生活をしていて、外国人住民の存在を身近に感じますか。

1 とても身近に感じている	41	12%
2 ある程度身近に感じている	139	41%
3 あまり身近に感じない	131	39%
4 全く身近に感じない	27	8%
5 わからない	2	1%



問8 【問7】で「1 とても身近に感じている」又は「2 ある程度身近に感じている」を選択された方にお尋ねします。どのような場面で外国人住民の存在を身近に感じますか。（※当てはまるもの複数回答）

1 学校、その他学びの場	34	10%
2 仕事場	86	26%
3 趣味やサークル活動など文化的な活動をしているとき	16	5%
4 スポーツをしているとき	11	3%
5 近所やショッピングなど日常生活において	137	41%
6 電車やバスで移動しているとき	37	11%
7 その他（問8-1へ）	13	4%

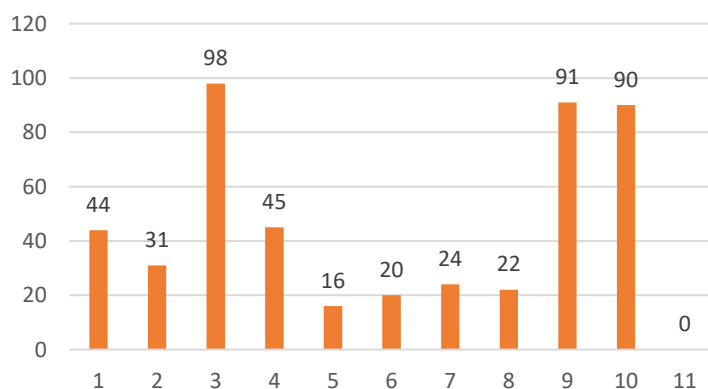


問8-1 問8で「7 その他」を選択した方は内容を記入してください。

- ・よく行くインドカレーのお店にいるから
- ・息子の配偶者が外国人だから
- ・日本語教師になるために学習しており、日本語、日本文化講座に時々参加しているため
- ・仕事の取り引き先等
- ・配偶者
- ・家族及び家族を通じた友人関係
- ・地域に住んでいる方が多い
- ・友人の配偶者
- ・貸しているアパートに住んでいる
- ・医療関係所

問9 あなたは外国人住民とどのような付き合いがありますか。(過去の経験を含む) (※当てはまるもの複数回答)

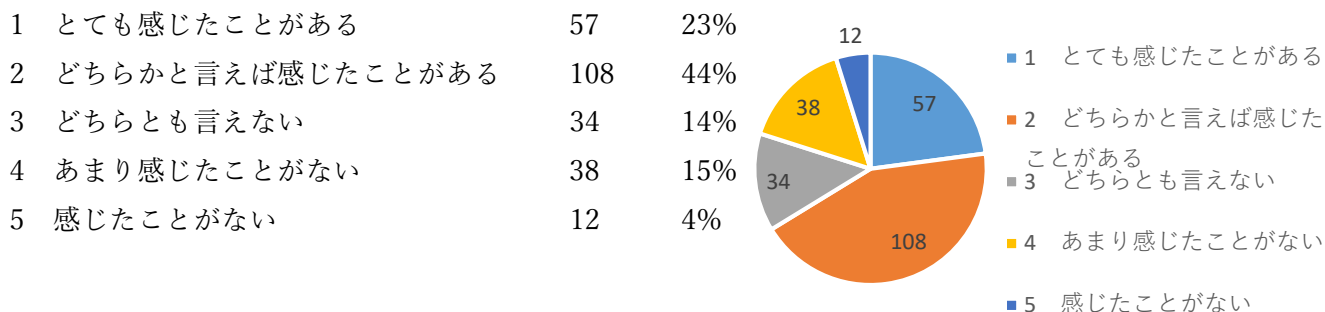
1 友人として付き合いしている (付き合いしていた)	44	9%
2 自分又は親戚が外国人と結婚している (していた)	31	6%
3 一緒に働いている (働いていた)	98	20%
4 学校で一緒に勉強している (していた)	45	9%
5 国際交流や多文化共生のグループで一緒に活動している (していた)	16	3%
6 地域の自治会活動や行事と一緒に参加している (していた)	20	4%
7 子どもが通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している (していた)	24	5%
8 文化及びスポーツなどの趣味の活動グループと一緒に参加している (していた)	22	5%
9 外国人とあいさつ程度の付き合いはある (あった)	91	19%
10 外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない	90	19%
11 その他 (→問9-1へ)	0	0%



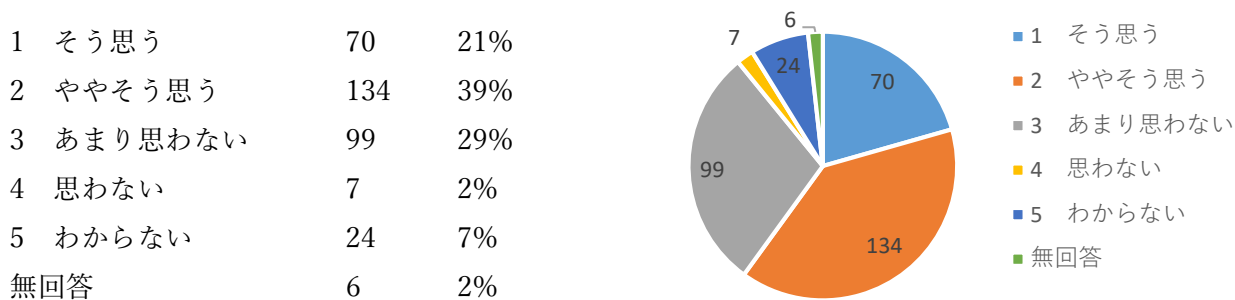
問9-1 問9で「11 その他」を選択した方は内容を記入してください。

- ・職場の取引先で、インド人、パキスタン人の方と付き合いがある
- ・前職の時、数名の顧客がいた
- ・親の知り合い・学校の英語教師が外国人だった
- ・勤務先の学校に外国籍の生徒が在籍している
- ・勤務している歯科医院に外国人が患者として来院するため
- ・家族が外国人の友達がいる・勤務先で技能実習生を受け入れ始めた
- ・子供の学校に通っている外国人がいる・学校の教師・飲食店を経営しているので食事に行きます
- ・子供の英会話スクールの先生・職場の窓口に来ることがあった・ホームステイを何ヶ月かしていた間に友達が日本に来た

問10 問9で選択肢1～9のいずれかを選択された方にお尋ねします。最近、行政や民間企業などで「やさしい日本語」(※)を取り入れる動きがありますが、これまであなたが関わった外国人住民との付き合いの中で、「やさしい日本語」のような言葉の配慮を行う必要性を感じたことがありますか。

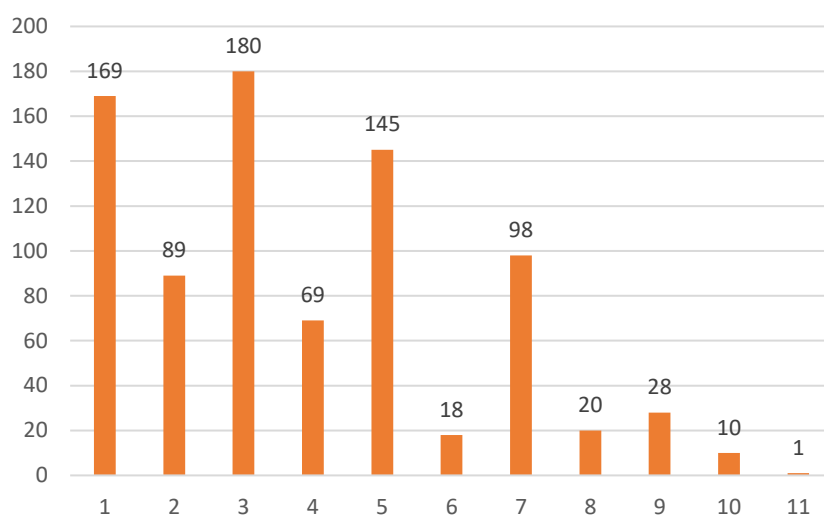


問11 あなたは、外国人住民と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。



問12 あなたは、地域社会に外国人住民が増えることについてどう思いますか。(※3つまで回答)

1	多様性が豊かな社会になる	169	20%
2	地域経済の活性化、発展に繋がる	89	11%
3	外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	180	22%
4	地域の国際化に貢献する	69	8%
5	習慣や文化の違いから、外国人住民とのトラブルが増える恐れがある	145	18%
6	日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながる恐れがある	18	2%
7	治安が悪化する恐れがある	98	12%
8	日本の固有文化が損なわれる	20	2%
9	特に影響はない	28	3%
10	わからない	10	1%
11	その他 (→問12-1へ)	1	0%

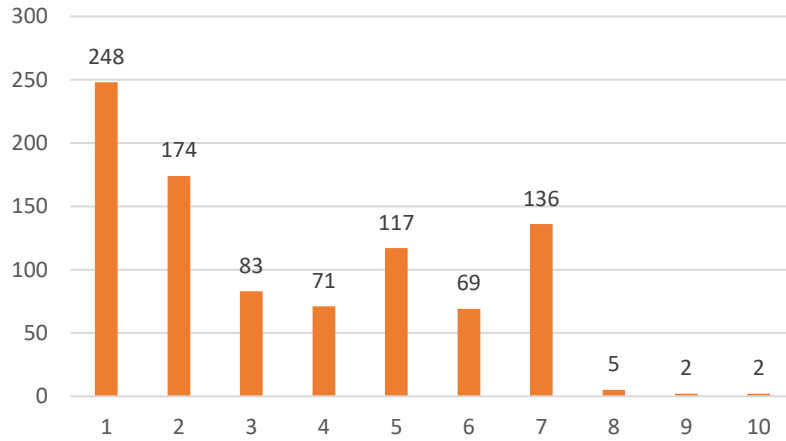


問 12-1 問 12 で「11 その他」を選択した方は内容を記入してください。

- ・治安は分かりませんが、文化の違いから街が汚れたりすることはあると思う
- ・世界の文化に対する理解が深まり、自分とは違うバックグラウンドを持つ他者の存在を認め、世界平和へとつながる
- ・地域の情景等を理解してもらい溶け込んでもらいたい。

問 13 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にしていくため、「日本人住民」は何をすべきだと思いますか。(※3つまで回答)

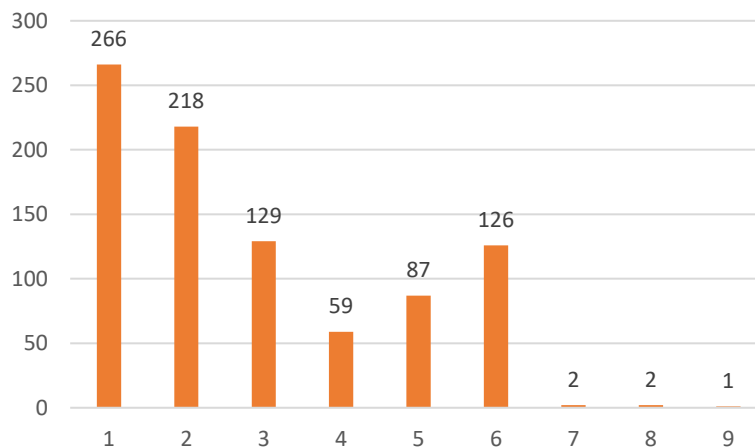
1 外国人に対する偏見や差別意識を持たないようにする	248	27%
2 外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる意識を持つ	174	19%
3 日本語や日本文化の多様性を日本人自らが知る努力をする	83	9%
4 日本語や日本文化を外国人に教える	71	8%
5 日本で生活するルールを守るよう、外国人住民に呼びかける	117	13%
6 地域住民との交流や地域の活動に外国人住民の参加を呼びかける	68	8%
7 日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる機会を持つ	135	15%
8 特にすべきことはない	5	1%
9 わからない	2	0%
10 その他 (→問 13-1 へ)	2	0%



問 13-1 問 13 で「10 その他」を選択した方は内容を記入してください。

問 14 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にしていくため、「外国人住民」は何をすべきだと思いますか。（※3つまで回答）

1 日本の習慣、生活ルールを守るようにする	266	30%
2 日本語を学び、日本語によるコミュニケーションが取れるようにする	218	24%
3 地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	129	14%
4 外国の言葉や文化を教える	58	7%
5 生活の中で感じたことを外国人目線で提案、発言する	86	10%
6 日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる機会を持つ	126	14%
7 特にすべきことはない	2	0%
8 わからない	2	0%
9 その他（→問 14-1 へ）	1	0%

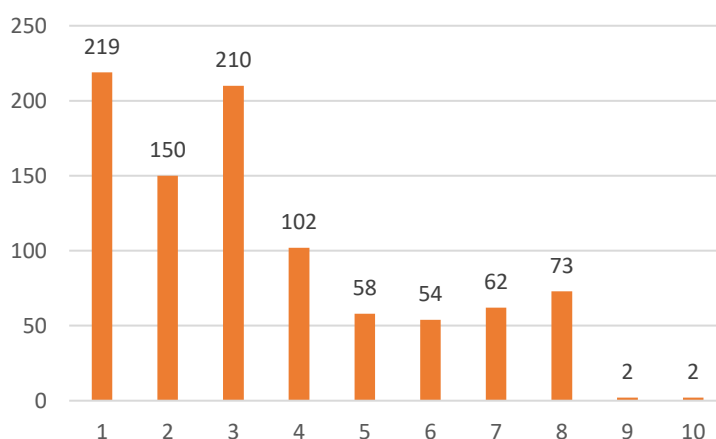


問 14-1 問 14 で「9 その他」を選択した方は内容を記入してください。

・郷に入らば従うルールとの中での目線

問 15 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にしていくため、県や市町村などの行政は、どのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。(※3つまで回答)

1 外国人住民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどを理解させる	219	23%
2 外国人住民が地域社会に積極的に参画できるような機会や場をつくる	150	16%
3 外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実する	210	23%
4 外国人住民に対する日本語の学習機会を充実する	102	11%
5 多文化共生の推進月間を設けるなど、双方に対する意識啓発を促進する	58	6%
6 企業に対し、労働環境の適正化や改善、意識啓発を促す	54	6%
7 外国人住民に対する保健・医療・福祉分野の施策を充実させる	61	7%
8 外国人住民の子どもへの教育（日本語教育を含む）を充実させる	73	8%
9 特になし	2	0%
10 その他（→問 15-1 へ）	2	0%



問 15-1 問 15 で「10 その他」を選択した方は内容を記入してください。

・どの項目もやらないよりはやった方がいいと思いますが、予算も時間も限られているので、優先順位が大事だと思います。

・2のような活動も必要ですが、そもそも彼らに対して対等もしくはアドバイスが気軽にできるような存在が必要かもしれません。

・1は理解させるのではなく、学ぶ機会を提供する。

・地域では東南アジア系の人が多く情報等事件が多いので身構えることがある。

問 16 その他、日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会について、御意見等がありましたらお聞かせください。

【相互理解について】

○双方が安心して暮せるようになるには、お互いの文化をまず知る事が大切だと思います。互いの事を知らない、分からないという事が、不安や恐怖心につながると思うので、まずは相互に知ろうとする事が大切で、そういう機会が重要になるのかなと思いました。

○日本人住民と外国人住民との様々なトラブルは、相互理解の不足が根本的原因かと思います。よって外国人住民に対する相談窓口のさらなる充実（外国人に対して「困ったら何でも役所へ」という告知の強化も含めて）を、まずはお願いしたいと思います。

○私が暮らす地域には大きな産業や観光地が少なく、外国人観光客や生活者を身近に感じる機会が少なかつたため、外国人に対し”トラブル””マナーの悪化”等のマイナスイメージを持ってしまいます。地域の中で自然と関係を持てるようなイベントや産業の活性化を継続していくことで、そういったイメージを変えていくことができるのではないのでしょうか。共存という言葉のとおり、どちらか一方的に与えるのではなく、互いに歩み寄るべきだと思います。

○日本人各自の偏見の払拭のための啓蒙が必要です。NHK、YBS、UTY など身近なメディアを通じて啓発していくとよいと思います。

○郷に入っては郷に従えの精神の私は、外国の人にこの地域で暮らしていくのであれば、馴染めるように努力してほしいです。外国から来た方は、役場に必ず書類などをもっていくと思うので、まずは役場の方に、地域住民と良い関係が築けるように“挨拶をする”等助言してあげることが大切かと思います。

○わかり合うことが大切だと思うので、地域行事の参加など住民との橋渡しを行政に望みます。その時行政は上から目線ではなく一員として寄り添ってほしいです。

【異文化交流について】

○新型コロナ禍では難しいですが、料理などの分野において地域の学校での異文化交流が盛んになればいいと思います。子供だからこそ好き嫌いも多く難しい面もあるとは思いますが、小さい頃の異文化体験は代えがたい貴重な体験だと考えます。また、料理を通じた町単位での異文化交流マルシェを開催するなど楽しみながら交流できるイベントを年1～2回企画しても良いかもしれないと思います。

○例えば、イオンやラザウォークなど普段買い物に行く場所で、子供も大人も気軽に参加できる語学教室や在住外国人と交流できるイベントがあればいいなと思います。食文化についてのイベントも楽しそうですね。

○国際交流の場が少ないと感じます。教育の場でも子供達が、多文化に触れる交流の場があれば、理解が深まると思います。また、日本語力が未熟な子供へのサポートも必要だと感じます。英語教育も始まっているが、諸外国と比べるとまだまだだと思います。

○個人の活動には限りがあります。推進月間を設け理解を深めるためのイベント等を通し、子供達も含めた啓発の活動があると良いと思います。

○外国人との言葉の壁をなくす事が重要だと考える。人口が減っていく日本なので外国人住民の子供たちが将来日本で生活できるような働きかけ支援をすることが必要だと思う。

○先日、子育て支援センターにてご主人が県外出身の日本人、奥様がフィリピン人、3歳の男の子というご一家に会いました。コロナ禍で親戚等もない山梨に引っ越して来られ、外出自粛のため奥様の日本語はレベルアップせず、お子様もほぼ英語のみで、幼稚園に通わせるのも心配とおっしゃっていました。ご一家のように日本のことを分かっている人がいれば、他者と交流できますが、そうでない場合にはより地域から孤立しがちなのではと感じました。そういった孤立が日本の生活習慣を学ぶ機会を奪い、治安が悪いなどのイメージにつながるのだと思います。

○農業法人が雇用する外国人をよく見かけます。外国人はグループ行動をしているせいか日本人社会に溶け込もうという気もなさそうです。雇用期間に限られるせいもあるかと思いますが、周辺住民との交流など周囲からも理解を得られやすいよう農業法人の努力も必要だと思います。

○多文化共生は必要ない。生まれ育った国の文化の中で生活するのが一番幸せだと思う。国際化やグローバル化より、地域の風土にあった民族の小規模コミュニティでの生活が望ましいと思う。

自分の生まれ育った風習と違うことをしなければならぬので、ストレスとなる。

【その他】

○宗教への考えが日本人は、「困った時の神頼み」的であるが、外国人の宗教への考えは、異なっている。一般的日本人には受け入れられない考えを持つ人もいる。この点をお互いに理解することは、難しい。

○福祉制度や英語記載のものを増やして、外国人、日本人も同じように、不自由なく暮らせる社会になれば安心できる

○アパートを貸す立場から、家賃の滞納、未納のままの引っ越し、すぐに転居等は企業に問題があるのか、国の政策に問題があるのかよく分からないが、当然、子供の教育にも大きな影響がでてくると思うと外国人が日本で暮らしやすくするためには、どうしたらよいか考えてしまう。